

トキと共生する佐渡の里山アクションプラン ～佐渡GIAHS(世界農業遺産)ブランド創出への挑戦～

概要

<事業実施の経緯・背景>

- 人とトキの共生を目指し、生きものを育む農法により生産され、市が認証する環境ブランド米「朱鷺と暮らす郷米」が成功
- 認証制度による生産体制を島全体に広げ、消費者との連携を果たしていることなどが評価され、日本初のGIAHS(世界農業遺産)に認定
- 地域資源は豊富であるものの、米以外の農林水産物のブランド力は弱い
- 認証制度の対象を拡大し、佐渡の特産品「おけさ柿」を次のブランド商品として売り出したいが仕組みづくりに苦戦中
- 農業・化学肥料を抑えた環境ブランド米は産地間の競争が厳しいため、競争に負けない、更なる農林水産物の高付加価値化に向けた取組が必要



新潟県佐渡市



生物多様性支援システムの開発



エコプロダクツ2012



おけさ柿販売イベント(島外)



地産地消フェスタ(島内)

<事業の概要>

①更なる農林水産物の高付加価値化

オンリーワンの佐渡GIAHSブランドを確立するため、大学等との連携により、地域ニーズに即した調査研究や教育の実施・還元等を行うとともに、島外の地域と連携・交流し、互いの地域の取組を学び、活かしながら、環境価値の向上や付加価値の証明方法を探る。

②おけさ柿のブランド化の推進

朱鷺と暮らす郷米に続く環境ブランド力の高い農産物を創るため、佐渡の特産品「おけさ柿」の認証制度を立ち上げ、持続可能な生産体制を確立するとともに、首都圏量販店との連携や販売イベントを開催することにより、PRの強化と定着、販売力の強化を図る。

事業の内容

事業の内容



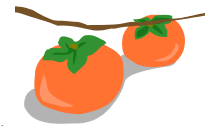
トキと共生する佐渡の里山
(イメージ)

①更なる農林水産物の高付加価値化

- 大学連携推進事業(交付金対象外事業)
寄附講座の実施(環境経済好循環戦略推進委員会)
- GIAHSアクションプラン推進事業
能登・佐渡里山里海連携会議、佐渡GIAHS推進会議の実施、首都圏フォーラムの開催

②おけさ柿のブランド化の推進

- 販売網構築事業、園芸作物振興事業
おけさ柿など首都圏等での販売、イベントの実施
- 地産地消推進事業
地産地消フェスタの開催(スイーツレシピコンテスト、まるごとふれあい市など)



総事業費

40.5百万円

ポイント

- ✓ 大学など多様な主体との連携、トキの営巣位置・農地情報等を反映した生物多様性支援システムの開発により米の付加価値向上
- ✓ おけさ柿を中心としたオリジナルスイーツの開発、販売イベント等により島内外でおけさ柿のブランド化に向けた基盤づくりに貢献

事業の成果

- ✓ 大学等と連携し生物多様性支援システムを開発、より効果的な運用を促進
- ✓ エコプロダクツ2012(178,501人来場)で能登地域とともに世界農業遺産をアピール
- ✓ 関東・関西方面を中心におけさ柿の販売イベント等を実施したことにより、新たな販路獲得に向けた準備ができた
- ✓ 地産地消フェスタでは来場者約3,000人、スイーツレシピコンテスト開発商品が約20分で完売し、2作品が商品化決定